

プレスリリース

「狩野智宏、神代良明」展

2017年1月21日（土） - 2月18日（土）

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

オープニング・レセプション | 2017年1月21日（土）16:00-18:00

この度東京画廊+BTAPは1月21日（土）より、狩野智宏と神代良明の二人展を開催いたします。

狩野智宏は1958年東京生まれ。1980年に和光大学人文学部芸術学科日本画専攻を卒業後、CM制作会社に勤務していました。1986年よりガラス制作を開始し、1995年、山梨に「狩野グラススタジオ」を設立します。以降、独自のガラス技法の探求を続け、中でも吹きガラスと鋳造を組み合わせた「くうき」シリーズは、東京国立近代美術館に所蔵されています。本展では、これまでの制作技法を一新し、ガラスと煉瓦、鉄を組み合わせて鋳造した作品を発表致します。狩野の作品は常に自然を意識しています。例えば、土や石、砂などの自然界の素材を取り入れることで、ガラスが割れた状態を生み出し、その過程を自然の営みの一部と捉えます。狩野の独創的な作品は、上海硝子博物館やスペイン、ラ・グランハ王立ガラス博物館にも収蔵されています。

神代良明は1968年千葉生まれ。1992年に東京理科大学工学部建築学科を卒業、1994年同大学院修士課程修了。建築設計事務所に勤務していましたが、吹きガラスの工程に魅了され、ガラス作家へと転身します。電気炉でガラスを焼成するキルンワークという技法から始め、発泡ガラスの作品へと移ります。焼成中の時の流れを意識しつつ、「物質と熱と重力とで成っていく構造を見届けつつ在らしめたい」と、神代が述べるとおり、その作品は世界と自己との関わりの試みです。現在は岐阜県に工房を設け、国内外の美術館やギャラリーで作品を発表しています。

「用の美」としての工芸的体験を持たない狩野と神代の共通点は、ガラスの素材の捉え方です。ガラスの液体性と熱による膨張と収縮の性質を、環境の中で見立てることによって、表現者は自身も環境で変化する物質であることに気づきます。二人のコンセプトの底には、近代以前の日本人の自然観が残っています。絵画・彫刻・工芸と分断された近代美術を超えて、素材との関わりを問うこと、これが二人の挑戦なのです。

皆様のご来場を心よりお待ちしております。

東京画廊+BTAP プレス担当: 鈴木佳世

e-mail: kayo.suzuki@tokyo-gallery.com / website: www.tokyo-gallery.com

開廊時間 | (火-金)11:00-19:00 (土)11:00-17:00

休廊日 | 日、月、祝

北京展覧会 | LI DI / Criss-Cross

2016年12月20日(火) - 2017年2月28日(火)

Ceramics Third Street, 798 Art zone E02, 4Jiu Xian Qiao Rd., Chao Yang District, Beijing, 100015 CHINA

東京画廊+BTAP | 東京

〒104-0061 東京都中央区銀座 8-10-5 第4 秀和ビル 7階

TEL: 03-3571-1808 / FAX: 03-3571-7689

www.tokyo-gallery.com



狩野智宏 <ピュシス> (2016) ガラス、石、砂、鉄、硫酸カルシウム、14x15x15cm



神代良明 <remaining composition B01> (2016) ガラス、アルミナ、49x16x14.5cm